

学則の変更の趣旨等を記載した書類

a 学則変更（収容定員変更）の内容

大正大学は、大正15年に日本で唯一の仏教総合大学をめざして設立された大学であり、伝統宗派である天台宗、真言宗豊山派、真言宗智山派、浄土宗の四宗団をその設立母体として教育研究を発展し、仏教精神を体した多くの人材を世に送り出してきた。

本学の建学の理念は、設立以来仏教の根本思想である「智慧と慈悲」の実践を掲げてきたが、平成21年3月、教育目標として以下に掲げる「現代に通じるブッダの教え：4つの人となる（慈悲・中道・自灯明・共生）」というビジョンを策定し、その御旗のもと教育・研究活動を行っていくこととした。

- ①生きとし生ける者に親愛の心を持てる人となる（慈悲）
- ②とらわれない心を育て、正しい生き方をできる人となる（中道）
- ③真実を探究し、自らを頼りとして生きられる人となる（自灯明）
- ④ともに目的達成のための努力ができる人となる（共生）

私たち人類が生かされてきた地球環境が、人間自らの手によって破壊されようとしている今、必要なことは、その最大の恩恵を一人ひとりが未来のために保護し貢献する生き方をすることである。換言すれば、グローバル化した地球上の国境を越えた地域や社会、生活のあり方を常に考え、人と人との関係の再構築をめざし、他人の幸せのために生きられる人となってほしいということである。こうした願いから、新教育ビジョンが誕生した。

また、本学では平成23年4月、大学運営ビジョン「首都圏文系大学においてステークホルダーからの期待、信頼、満足度No.1を目指す」を掲げたが、「首都圏文系大学」とは、この場合、中規模(収容定員約8,000名まで)の大学で文系教育を特色とする大学のことをいう。またNo.1とは、大学におけるすべての運営や事業内容を対象とするものであり、その中核は教育、研究、社会貢献、地域連携事業である。

この目標を達成するために、指標を用いてマネジメント化に転換しようとする試みが「期待、信頼、満足度」というキーワードである。すなわち、これらは顧客（ステークホルダー）の視点からの評価について表現したものである。一方、大学の取組みの視点でみると、期待とは大学が行った「約束」（広報されているすべての事項）であり、信頼とは約束を確実に実行する（あるいは実行の努力が目に見える）ことである。また満足度は、大学の実行によって恩恵を受けた人々が期待通りの価値を見出すことができたかどうかということに他ならない。すなわち、正しい点検、評価が行われ、価値ギャップがフィードバックされ、是正や改善、改革につなげるマネジメントシステム（PDCA サイクル）を確立させる。こうした循環によって、大学の描いた首都圏文系大学 No.1 の目標に向かって大学を運営させる機能を **TSR マネジメント** と呼ぶ。

さらに、目標について、教職員及び学生、さらに多くのステークホルダーが価値観を共有し、組織も人も達成に向けた取組みを行おうとする態度、姿勢を **TSR シップ** と名付ける。

平成22年には、この教育理念・ビジョンを踏まえて、既存の人間学部、文学部に加え新学部として仏教学部、表現学部を開設し、4学部体制の文系総合大学を目指すこととした。これは、本学が長い歴史の中で培ってきた教育・研究分野の再構築・再編を試み、現代的課題やニーズに対応した新たな学部や学科を設置したいと考えたからである。

近年の18歳人口減少の中にあつて、大学を取り巻く社会情勢の変化に対応すべく平成20年度より行ってきた教育改革の姿勢と大学運営と教育の融合にかかる取り組み内容が社会に理解・評価され、各学部・学科に対する志願者は高い水準を維持している。

本学はこれからも社会的な要請を捉え、必要とされる優秀な人材を輩出することが大正大学の社会的責任（TSR）であると考え、受験生ニーズの高い分野について、その使命と役割を社会に対して明快にするため、2013年度において文学部人文学科の入学定員を40名増員し、収容定員を160名増員するものである。

収容定員増の内容及び内訳は以下の通りである。

学部・学科	入学定員	編入学定員 3年次	収容定員
仏教学部	100	25	450
仏教学科	100	25	450
人間学部	420	11	1,702
アーバン福祉学科	80		320
人間環境学科	60		240
臨床心理学科	110	5	450
人間科学科	105	3	426
教育人間学科	65	3	266
文学部	<u>300</u>	6	<u>1,212</u>
人文学科	<u>140</u>	3	<u>566</u>
歴史学科	160	3	646
表現学部	200	3	806
表現文化学科	200	3	806
計	<u>1,020</u>	45	<u>4,170</u>

b 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学における全学的見地から収容定員変更の必要性は、以下の4点である。

1. 教育改革等により社会的要請にマッチし、4年連続で志願者数は増加し、本学に対する期待度が向上していることから、その進学希望者のニーズに応える必要があること。
2. 本学では、「大正大学の社会的責任（TSR）」を標榜しており、社会的に大学の入学定員の超過が問題視され、厳格化の動きもあることから、入学者の受け入れを入学定員の1.0倍に近づける努力をしていくために定員増を実施する。
3. これまでの学生数の受け入れ規模を拡大し、教育環境の充実のために、経営・財政的な健全化を図る。
4. 本学の建学の精神に基づく新教育ビジョン「4つの人となる」を具現化した人材の育成し、より多く輩出することが本学の責務であり、社会の要請である。

以上のことに鑑み、社会的要請と志願者のニーズの高い人文学科の収容定員増員の申請をすることとした。

文学部人文学科の収容定員増員の理由

本学の人文学科の教育研究分野は、日本語・日本文学、哲学・思想、宗教学および文化（国際的、学際的視点による）に関するもので、これらは本学の伝統的な学領域のなかで顕著な実績を残してきた分野で構成されている。人文学科を構成する3つの履修コースは、かつて、「哲学・宗教文化コース」は哲学科、「日本語日本文学コース」は日本語・日本文学科、「カルチュラルスタディーズコース」は国際文化学科のそれぞれに設置されていた履修コースであったものを、平成15年の文学部の改組による表現文化学科開設を機会に同学科に統合された。さらに、平成22年、文学部から独立する形で表現学部を開設し、これを契機に文学部に上記3領域による人文学科を開設し、現在に至っている。

現在、大学教育の体系が多様化、専門化に向かう中で、本学の人文学科はある面で旧来の正統的な文学部の教育研究のあり方を踏襲しつつ、時代や社会の要請に基づいた教養と感性豊かな人材育成を目指して教育活動を行っている。

また、近年、本学文学部のような人文系の学部や学科に対して受験生の興味と関心が向かっている傾向にある。本学においても文学部に人文学科を開設以来急激に志願者が増加した。本学の人文学科は平成22年度に開設されたが、人文学科設置1年前の志願者数は375名であったのに対して平成23年度には1,031名、平成24年度は減少したとはいえ990名と4年前の2.6倍、現在の入学定員は100名であり、志願倍率は実に10倍となっている。

このような傾向の背景には現代社会の特質でもある「経済活動重視」へと価値観が偏るなか、一方では人間性の復活や文化的教養を学ぶことの意義について見直されていることがあげられる。

こうした現状に対して大正大学は創立以来、人文系の教育・研究に重点を置き、教育の実績をあげている評価もあり、多くの高等学校の進路指導担当者から入学定員の増員についての要望が寄せられているところである。また、受験生やその保護者からの期待についてもオープンキャンパスなどの入試相談会を通して実感として伝わってくるところである。

特に、受験生の日本文化、文学、哲学、宗教など人文系基幹分野への回帰現象の傾向は当分の間、続くものと予想されることから、こうした社会的ニーズの変化に対して積極的に応えることが大正大学の社会的責任としてとらえ、収容定員増員の申請を行うこととした。

参考資料：過去5年間の大学全体および人文学科の過去4年間の志願者数、合格者数、入学者数の推移

c 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

このたびの学則変更（収容定員変更）は、人文学科におけるこれまでの教育・研究の実績の上にたったものである。よって、教育の理念や目標、カリキュラムの枠組みや編成等についての変更することなく、収容定員の変更をするものである。

過去5か年間の志願者数、合格者数、入学者数の推移

学科名	H20			H21			H22			H23			H24		
	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
人文学科	/	/	/	375	142	79	699	255	115	1031	281	123	990	305	118
全学部	3,041	1,730	1,001	3,961	1,751	995	4,850	1,977	1,010	5,962	2,084	1,054	6,014	2,478	1,135

※平成24年度の入学者数は予定

